

何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- すでに備わっている知識と関連付けながら、学習を定着させることができる。
- すでに備わっている知識や技能の活用の仕方考えることができる。
- 課題に向かって、粘り強く最後までやり遂げようとする事ができる。

何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 学習のゴールを明確にし、見通しをもって計画的に活動に取り組んでいる。
- 各行事や実行委員の活動を通して、粘り強く取り組む力や学年で協力する力が高まってきている。

子ども達の実態

- 新しいことに挑戦したいという気持ち強い。
- 行動を実行する時は前もって確認してから行動することが多い。
- 自分の思いを伝えることをためらう児童がいる。

子ども達の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子どもへの指導

- 教科担任制を活用し、個々の課題や困り感を把握することで子どもに合わせた場所や時間の確保等の支援を行う。
- 最後（ゴール）のイメージを明確に示すこと。

目指す子ども達の姿

- 学び合いの中で、自他の思いや考えのよさを知る。
- 人と人とのつながりを大切にしようとする。
- 課題解決に向けて、目的や方法を考え、最後までやり遂げようとする。

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 一年間の学習の見通しをもち、校外学習や体験学習、出前授業を単元に関連付けて設定した教科横断的な学習活動。
- 3年生とのなかよし活動（特別活動）で他者意識をもち、実行して次の活動に生かす。
- 課題解決に向けて目的や方法を自分たちで考え、取り組む。

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善をする。
- PDCA サイクルを通して、指導と評価の一体化を図る。
- 互いの考えや取組を認め合える場面を学習活動の中に取り入れる。

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 校内研修を充実させる。（主体的・対話的で深い学び、学習評価、児童理解）
- 担任、専科、児童専任がチームとして情報共有を積極的に行い連携し、指導を行う。
- 地域や外部の人材を生かした教育活動に取り組む
- 懇談会等の内容の充実
- Y-P アセスメントの活用

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- 自分の考えをもち、相手に分かりやすく伝える力の育成。
- 汎用的な資質・能力
- 体験的な学習の重視
- 自ら課題をもち、その課題を解決する力の育成。